倉敷市立玉島小学校

学校だより 玉小っ子 12月

令和５年１１月３０日

急激に猛威をふるったインフルエンザの嵐が、少し下火にはなってきました。ただ、先週末からの４連休があったために、広がっていないだけかもしれません。校内の感染者が“0”になるまでは、安心できませんから、今しばらく、十分な手洗いや換気等、感染対策を呼び掛けていきたいと思います。ご家庭でも、お気をつけください。

さて、先日の土曜参観日、ご多用な中、ご都合をつけてくださり、ご参観いただきましたこと、ありがとうございました。保護者の皆さんが、お子さんたちの横について、一緒に作業してくださっている学級も複数ありました。コロナ禍前には、当たり前の光景ですが、何だか懐かしかったです。と同時に、少しずつ通常の学校教育にもどっていることをうれしく感じました。

いよいよ 12 月を迎えます。２学期のまとめをする時期になりました。学期末といえば、“テスト”ですよね。担任をしているとき、授業を進めることを優先したために、ため込んでしまったテストを１日に何枚もさせてしまったことを思い出します。丸を入れて返すのも、ドバっと一気になってしまっていました。１枚１枚を大切にできていなかったのを反省しています。ところで、お子さんがテスト持って帰ったとき、どんな声掛けをしてくださっていますか。例えば、50 点のテストだったらどうでしょう…。半分も間違っているのですから、誉めるなんてできません。いやいや、半分は正解していることを認めてあげないと…。さて、どちらでしょう。100 点満点の理想と比較すると、その半分の 50 点には、親として満足いかないかもしれません。しかし、丸のついた 50 点をまったく評価せずに、いきなり叱ってしまうのはいささか問題なのだと思います。

良さを見つけて、それを褒めてあげる。このことが子育ての第一歩と言われています。子どもたちは、褒められれば、その良さをどんどん伸ばしていきやすくなります。良さが伸びると、やがて短所は薄まっていくものです。50 点の答案は、丸が半分、バツが半分、今の我が子の姿を示しています。我が子のあるがままの姿を、温かい目で見る。このことが何より大切なことだったと、子育てを終えてしまった今、考えさせられています。これからお子さんが持ち帰るテスト、まずはできているところに目を向けて、評価してあげることを忘れないでいてください。次に、間違ったところに着目し、どこをどうすれば正解になったかを一緒に見つけてあげてください。バツがついている回答でも、ひょっとすると途中までは合っているかもしれませんね。「おしかったなぁ、ここまではできているから、あと一歩で正解になるな…」この声掛けが、背中を押してくれるはずです。「手塩に掛けて育てる」という言葉があります。手塩にかけるということは、親が工夫をこらし、愛情を注いで育てるという意味です。お子さんの長所の芽が、どんどん膨らんでいくための“一工夫”、チャレンジしてみてください。

校長　髙 木　盛 雄

☆文化振興財団の出前授業で「落語」を楽しみました！（5・6年生）